

A collage of three images. The top image is a banner with the text 'JAL 愛媛原告を支える会' (JAL Ehime Plaintiff Supporting Association) in large, bold, black characters. The middle image is a blue sky with white clouds. The bottom image is a cartoon illustration of three people: a man with a mustache, a woman with short hair, and a man with glasses, all holding microphones and looking surprised.

発行：J A L 不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F 愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

私も
応援 します

J A L 争議団の皆さんのお頑張りにいつも頭が下がります。

林さん、大池さんと言うと、通信労組のストライキ支援行動の折の「人の命を守る」お二人の行動が思い出されます。呆然と立ち尽くしている大勢の中から、迅速かつ冷静にテキパキと指示を出しているお二人の所作にすごさを感じました(後で知ったのですが、実践は初めてだったとか)。この時改めて、経験豊富なベテランC Aの理不尽な解雇に、残念さと怒りが湧き上がったことを思い出します。

私にとってCAという職業は、どこか「高値の花」で近寄りがたい存在というのが本音でしたが、お二人と知り合い、同じ働く仲間なんだと思うようになりました。

大声でエールを送ります

松山市在住 前川 千鶴江



様々な集会で訴える姿を拝見し、理路整然とした解かりやすい話し方、張りのある声にいつも「すごいなあ」と感心しきり。素敵な笑顔の奥にたぎる闘志を感じずにはおれません。また、メーデー集会で見せる茶目っ気たっぷりの被り物、物販の時の巧みな話術にも驚かされます。

私の退職時に、そっとお花を机の上に飾ってくれる心遣いは忘れられません。まだお礼も言えてなかったことを恥この場で伝えたいと思います「ありがとうございます!」

どんなに困難な闘いでも「明けない夜は無い」ことを信じ、これからも頑張ってください。微力な私ですが、大声でエールを送ります。

J A L からお給料を頂けなくなつてまもなく 9 年が経とうとしています。考えてみると恐ろしいことです。別の仕事を探して糊口を凌いでいる者も多々おりまして、私もその一人ですが、職を得ることがいかに大変か、この歳になつて、しみじみ感じています。まず、年齢でひつかかります。そして、資格が何もない。さらに、争議団としての活動があるので、フルタイムでは働きにくい。なかなか厳しい状況です。

とです。協会では、それを「怒りとは後悔しないこと」と訳しています。日本では「怒ること」は悪いこと、恥ずかしいことだという風潮があります。でも、アメリカでは、怒りの感情と上手に付き合いうための心理トレーニングが1970年代から始まっているそうです。「怒ることは人間の自然な感情なのだから、無理に抑える必要はない」「怒るべき時に上手に怒り、怒らなくてもいいことは怒らない」ですむように、幼いころから大人が子共に教えることが大事な

おざりにされました。日本では、それが全くないのです。キッズ用アンガーマネジメントでは、子供たちに最初に約束してもらうことがあります。「怒つてもいいんだよ。でも、三つだけやっちゃいけないことがあるから、それを守ろうね」。その約束とは、「相手を傷つけないこと」「自分を傷つけないこと」「物を壊さないこと」の三つです。これは、そのまま大人にも当てはまる約束です。

不当な解雇は「怒つていい」と

西予市在住 大池ひとみ



8月11日 松山空港前宣伝



8月23日 德島駅前宣伝



9月2日 G20労働・雇用大臣会合開場前宣伝

皆様のご支援が大きな後押しとなります。引き続き、最後までどうぞよろしくお願い致します。

先日、ご近所の支援者の方が「JALの解雇問題は歴史に残る闘いだ。筋をきつちり通した解決をしないといけない。中途半端なうやむやなことで終わらせてはダメだ」とおっしゃいました。そのとおりだと思います。私たちの尊厳を傷つけ、人生を大きく狂わせた不当な解雇は、どう考えても抑えることのできない「怒つていいこと」とでしよう。その人生最大の怒りを胸に、「怒つていいこと」を納得いく形で「変えていく」ことを継続していくかなければなりません。

「傷つける」というのは、肉体的な暴力だけではありません。態度、表情、声の大きさ、トーン、言葉、すべてその要素となります。怒りが湧いてきたとき、そのルールを守らなければ、相手を傷つけ、また、自分もあとで後悔することになる、ということです。そうやって、順々に怒りのメカニズムを解いていきます。

今回、私がここでご披露したいのは、たくさんの中から「怒りの温度を計ろう」という項目です。

小グループに分かれて、過去1週間を振り返ってみてイライラしたこと、腹が立つたことを書き出します。そして、グループ内で発表します。次に、今まで自分が生きてきた中で最大の怒り、これが以上怒つたことがないというくらいいの怒りを思い出してみて、それを10とした場合、先ほど出し合つた怒りはどのくらいか皆で温度計に印をつけます。それぞれが自

分の人生をたどり、今まで最高の怒りを記憶の中から引っ張り出します。理の母に、やらないで下さいとお願いしていたのに、こつそり子供にお菓子を与えていた」いろいろな怒りがあつて、それが5だったり、6だったり、8というのも出てきたりします。

私の人生最大の怒りは、何と言つてもJALを不當に解雇されたことです。これ以上の怒りがほかにあるでしょうか? 温度は10で収まるわけがなく、それを突き破つて2000とか3000とか、鋼鉄をも溶かすほどの高温です。それを考えれば、「電車に乗るとき足を踏まれたのに無視された」とか「食事の約束をしていたのに、ドタキャンされた」とか、「いつも守っているのに、たまたまスピードを出したらパトカーに捕まつた」とか、そういう怒りは、私の中では、0.001口くらいにしかならないことになります。

JALから超メガサイズの怒りを受けたおかげで、日頃の怒りは些細なものを感じてしまう? なさいのですが、やっぱり、10に近い腹が立つことはいっぱい出でます。世の中は理不尽なことだけですから!。その怒りを「怒つていいこと」「怒らなくてもいいこと」の二つに分け、さらに、「すぐには変えられること(コントロールできる)」「変えられないこと(コントロールできない)」に分けます。「怒つていいこと、でも、すぐには変えられない」場合はどうしたらいいのか? 答えは「現実的、具体的な対処策を見つけること」になります。協会も、整理解雇は想定外のことだったかもしれませんのが、とにかく、それには時間がかかります。もう十分時を重ねました。あと3ヶ月で9年です。10年目に突入したくはないですね!

ALの解雇問題は歴史に残る闘いだ。筋をきつちり通した解決をしないといけない。中途半端なうやむやなことで終わらせてはダメだ」とおっしゃいました。そのとおりだと思います。私たちの尊厳を傷つけ、人生を大きく狂わせた不当な解雇は、どう考えても抑えることのできない「怒つていいこと」とでしよう。その人生最大の怒りを胸に、「怒つていいこと」を納得いく形で「変えていく」ことを継続していくかなければなりません。